

## 原因と再発防止対策の例

	原因	再発防止対策
人的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小まめな給水や塩分補給、休息を取らずに作業を行った。</li> <li>● 体調不良を自覚していたにもかかわらず、作業を継続した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自覚症状にかかわらず、小まめな給水や塩分を補給し、休息をとる。</li> <li>● 体調不良を自覚した時には、その時点で作業を止めて休息を取り、現場の職長等に相談する。</li> </ul>
設備的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日よけや給水場所等が備え付けられていなかった。</li> <li>● WBGT 値測定器を設置していなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日よけや給水場所等を早めに準備するなど、暑熱環境から労働者を守る対策を講じる。</li> <li>● 暑くなる前から WBGT 値測定器を準備し、測定を行う。</li> </ul>
作業的	朝から暑くなる予報だったが、連日の暑さから、特に誰も注意をしなかった。(作業当日は最高気温 32°C)	夏期の屋外作業の前には必ず体調確認を行い、作業中も作業者に対して声掛けを行い、体調不良者を早期に見つける。
管理的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業計画や作業手順書に、WBGT 値等を活用した熱中症予防対策を講じていなかった。</li> <li>● 熱中症に対する労働衛生教育を実施していなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WBGT 値測定器を活用し、暑さ指数が 28°Cを超えた場合には厳重警戒を職長に通知するなど、計画的な対策を行う。</li> <li>● 作業員に熱中症に対する教育を行い、熱中症予防管理者を選任するなど、組織的な熱中症予防体制を整える。また、朝礼等で繰り返し教育を行う。</li> </ul>